



京都切り絵歳時記



みやこ 京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじえんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031 京都市伏見区
深草池ノ内町13
京エコロジセンター2F
活動支援室内
TEL: 075-647-3535 FAX: 075-647-3536
E-mail: ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通
御池下ル柳八幡町65
京都朝日ビル4F
京都市総合企画局地球温暖化対策室内
TEL: 075-211-9281 FAX: 075-211-9286

自然エネルギーWG



事業活動・イベントなどで使う電力を、自然エネルギーの電力に
京（みやこ）グリーン電力証書制度がスタート
第1号は「京都・花灯路」

フォーラムの自然エネルギー
ワーキンググループでは、2002
年度から、京都における自然エ
ネルギーの普及・拡大の仕組み
づくりの一環として、京都独自のグリーン電力制度（右
下説明参照）を検討してきましたが、この度、その成果
が実り、「京グリーン電力証書制度」がスタートしまし
た。

■京（みやこ）グリーン電力証書制度の仕組み

京グリーン電力証書制度とは、京都市内の市民共同
おひさま発電所（市民、事業者が基金を出し合って、
保育所等に太陽光発電パネルを設置する取組）で発電
した電力をフォーラムが「京グリーン電力」として認
証し、事業者などに購入してもらう仕組みです。

■京（みやこ）グリーン電力証書制度の特色

- 自然エネルギーの地産地消：
京グリーン電力は、京都で自然エネルギーから生み
出した電力の環境価値分を証書購入を介して京都で利
用してもらうという、自然エネルギーの地産地消の取
組です。
- 証書購入代金は、おひさま発電所の設置に利用：
証書購入代金は、特定非営利活動法人きょうとグリー
ンファンドのおひさま基金にプールされ、新たな市
民共同おひさま発電所の設置に利用されます。

■第1号として、「京都・花灯路」での利用が決定

制度の利用第1号として、嵐山（今年12月）および
東山（来年3月）で開催される「京都・花灯路」で、
京グリーン電力が使われます。証書購入を通じて、花
灯路のライトアップで使用される電力の一部が、市民
共同おひさま発電所で発電したグリーン電力と見なさ
れます。

フォーラムでは、これから本格的な制度の運用に向け
て、整備を進めていく予定です。今後、ますます京グリー
ン電力証書制度の利用が増し、地球温暖化防止につな
がることが期待されます。なお、詳しくは、フォーラム
のホームページ <http://ma21f.web.infoseek.co.jp/> を
ご覧ください。

【グリーン電力証書制度とは】

グリーン電力とは、太陽光や風力などの自然エネ
ルギーによって発電され、第三者機関によって認証
された電力のことを言い、環境負荷の少ない電気と
いう「価値」
を持っています。

グリーン電
力証書制度と
は、その価値
を「グリーン
電力証書」と
して値段をつ
けて発行し、
これを企業や
自治体、ある
いはイベント
主催者などの
事業者購入し
てもらうこと
でグリーン電
力の拡大・
普及を目指す
取組です。

【グリーン電力証書】



10月5日～14日「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験が行われました

フォーラムは臨時駐輪場を運営
2ページに詳細記事



【写真】臨時駐輪場の様子

Agenda Forum

11月の
ミーティングと
主催行事の予定

日時会場未定
2007（平成19）年度
第5回幹事会・第4回常任幹事会
合同会議



「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験 フォーラムと京都市のパートナーシップで臨時駐輪場を運営 目標の利用者数と調査を達成

京都の都心の将来像をつくる上で、たいへん大きな意義のある実験とマスメディアでも報じられたとおり、10月5日～14日の期間で「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験が四条通を中心とした都心部で行われました。

○将来を占う12・13・14日の四条通「トランジットモール」実験

京都市では今、「歩いて楽しいまちなか戦略」と名づけて、近い将来の都心の姿を描き、その実現に向けた多数の関係者の合意形成に向けて、協議会を設置して精力的に話し合いを進めています。フォーラムもこの協議会に参加しています。

都心のメインストリートである四条通においては、マイカーを使わず、徒歩と公共交通機関（鉄道・バス・タクシー）で多くの人々が訪れる「トランジットモール」という将来像を検証する実験が行われました。これは3日間の中で時間を決めて、四条通の車道を往復2車線へと半減させるとともにバス・タクシー専用とし、その分で歩道の幅を今の2倍に拡げてゆったりと歩ける状況を、実際に市民に体験してもらおうというものです。

12日夕刻以降と13・14日正午からの実験の様子がテレビ等で報じられ、ねらいどおり、公共交通がスムーズに運行され、広い歩道をゆったりと歩く人々が賑わう、新しい都心の姿が実現しました。

【写真】四条通「トランジットモール」のようす



○フォーラムは9日～14日の6日間、臨時駐輪場を運営

さて、環境にやさしい交通手段として自転車がありますが、都心においては放置自転車を無くすなどルールとマナーを守って自転車を利用してもらうことが重要な課題になっています。フォーラムの過去の交通WGを中心とした交通分野の活動実績が評価され、今回の社会実験において、京都市とのパートナーシップで都心に臨時に開設される駐輪場の運営と利用者調査を実施することになりました。

社会実験期間の後半6日間、さまざまな団体・個人が集うフォーラムのパートナーシップ組織としての力を遺憾なく発揮し、延べ250人の運営スタッフの参加を

得て、都心の11箇所の臨時駐輪場を運営しました。

臨時駐輪場の利用者数は日を追って増え13日・14日は一日2000台の利用があり、京都市による撤去の強化とも相まって、日ごろ放置自転車の目立つ箇所から放置自転車が全く無くなるなど、所期の目標を達成しました。また、今回の臨時駐輪場の運営にあたっては、利用者に対し「どこから自転車で来たのか、どこへどんな目的で行くのか」といった自転車利用者の行動に関する聞き取り調査を行いました。運営スタッフの熱心な努力で、実に臨時駐輪場利用者の過半数から答えていただくことができ、今後の都心の駐輪場整備を計画する上で欠かすことのできないデータを得ることができました。

【写真】一杯になった臨時駐輪場



【写真】放置自転車の消えた寺町通



○注目される今後の動向

社会実験では、自動車や歩行者の交通量の調査、またアンケートによる来訪者や地元の意向調査など、自転車利用実態の調査のほかにも京都市によるさまざまな調査が行われました。

これらの調査結果を分析評価した上で、「歩いて楽しいまちなか戦略」の実現に向けて今後も検討と合意形成が進められていきます。フォーラムもパートナーシップの下、協議会の一員としてこの取組に参画していきます。今後の動向にご注目ください。



10月20日 大將軍商店街の秋祭りで省エネ相談所を開設 57名の相談を受け成功

今年度のフォーラムWGのプロジェクトとして、自然エネルギーWGが中心となって、「自然エネルギー・コミュニティづくりプロジェクト」を実施しています。その一環として、10月20日に、「妖怪まちおこし」で知られる京都市北区の大將軍商店街において、秋祭の宵宮で省エネ相談所を開設しました。

相談所は盛況で57名の方の相談を受けました。市民

共同おひさま発電所（市民、事業者が寄付を出し合っ
て、保育所等の屋根に太陽光発電パネルを設置する）
の一つが設置されている地元の「妙林苑」保育園の子
どもたちや保護者の方々も相談に訪れました。このプ
ロジェクトで目指している『自然エネルギー利用の推
進』および『省エネルギー活動の推進』を進める上
でのコミュニティづくりの一步となりました。

【写真左】人気の妖怪仮装行列「一条百鬼夜行」

【写真右】省エネ相談所も大盛況



9月23日 京都音楽博覧会 I N 梅小路公園 環境配慮型のイベント NPOブースにパネル出展

9月23日（日・祝）、京都梅小路公園芝生広場で『京都音楽博覧会 I N 梅小路公園』が開催されました。京都出身のロックバンド「くるり」など国内外の8アーティストが演奏し、約15,000人が参加した大規模なイベントとなりました。

環境対策の取組として、入場ゲートでボランティアスタッフが博覧会のタイムテーブルを印刷したオリジナルのごみ袋を配布し、会場内で出たごみや資源は会場内に設置された“エコステーション”に持ち込むよう呼びかけました。また、フォーラムのえこまつりWGのメンバーでもある地域環境デザイン研究所 ecotone の協力で、リユース食器が全面導入されました。エコステーションでは参加者自らが、ごみ・資源・リユース食器を分別することが徹底されました。

会場内に設けられたNPOブースにフォーラムからも出展し、えこまつりWGの活動と成果の紹介を中心

にパネル展示とチラシ配布を行い、さらには、この会場自体で環境対策の取組が積極的に行われていることをアピールしました。

【写真】イベント参加者はタイムテーブルが印刷されたごみ袋を携帯しました。



事務局動静 10月 ～事務局スタッフの動きを報告します～



2日（火） 社会実験臨時駐輪場

スタッフ説明会

3日（水） 嵐山交通対策研究会

事務局会議

5日（金） 企画会議

9日（火） 「歩いて楽しいまちな

～14日（日） か戦略」社会実験・

臨時駐輪場運営

12日（金） KES C 森づくりチームワークショップ

京グリーン電力証書制度プレス発表

15日（月） KES C 環境学習チームワークショップ

16日（火） エコツーリズムWG運営会議

19日（金） 京都市地球温暖化対策評価検討委員会

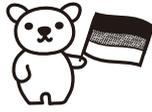
えこまつりWG運営会議

22日（月） 自然エネルギーWG運営会議

24日（水） 醍醐コミュニティバス運行管理委員会

26日（金） KES C おひさま発電所見学会

27日（土） KES C 花脊の人工林・天然林視察



【第5回】小山直美のドイツ報告 ドイツ人の自然観



今回はドイツ人の自然観について、ご紹介させていただきます。

○ドイツ人の自然観

自然保護がたいへん進んでいるドイツでしたが、唯一私が理解できなかったのは、「自然は人間が管理すべきもの、管理できるもの」というドイツ人の自然観でした。例えばドイツでは、森に棲むシカが死なないように冬の間、餌付けし、冬が終わったら数が増えすぎないように狩猟をして頭数管理を行います。後で殺すくらいなら、最初から餌付けしなかったら良いのにと思いました。

自然界では、野生動物は他の生物との相互作用により、著しく増減を繰り返します（グラフ参照）。とても人間が管理できるものではなく、それができるのは自然だけです。人間が手を入ると、逆に生態系のバランスを崩してしまうことになります。

BUND（ドイツ環境保護連合）やNABU（ドイツ自然保護連合）のスタッフの方に聞くと、実際にはドイツでも、狩猟による頭数管理には賛否両論あるとのことでした。「ハンターは、動物の数が増えているから、人間が管理しなければならないと言う。一方で、狩猟は動物の頭数管理には関係ないという意見もある。結論の出ない問題だ」「ハンターが動物を餌付けするのは、動物を撃ちたいからだ。自然の森なら、人間が統制しなくても、自然に動物の数はコントロールされるはずだ」といった意見を伺いました。しかし、ドイツでは総じて「自然は人間が管理すべきもの」と思っている人が多いようでした。

最近、日本も「野生動物保護管理」といって、狩猟や有害獣駆除により、欧米型の「野生動物を一定の数に維持する」という方法を取り入れるようになってきています。いくつかの自治体が保護管理計画を策定していますが、まず、野山を動き回る野生動物が何頭いるのかを正確に把握することができないし、もともと自然界では著しく個体数の増減を繰り返す動物の数を一定に保つことは不可能です。去年はツキノワグマの

保護管理計画を策定していた自治体で、駆除の上限数を決めているにも関わらず、それを上回る数を殺してしまったりと、上手く機能していないのが現状です。

○日本人の自然観

日本では、江戸時代には、たった1種類の野生動物も滅ぼさなかったと言われています。かつての日本人は、動物にも植物にも、自然界の生きものには全て神様が宿っていると考え、自然への畏敬の念を持っていました。これは、「自然を人間が管理する」という欧米の人間至上主義の考えとは異なるものでした。日本ではかつては、自然に対する謙虚な自然観が、行き過ぎた自然の乱開発を防ぎ、野生動物との棲み分けを可能にできました。工業先進国と言われる日本が、僅かながらも自然の森を残し、クマのような大型野生動物を残すことができたのは、世界に誇れることです。人間が地球を破壊できるほどの力を持ってしまった現在、真に他の生き物との共存を可能にするのは、人間による自然のコントロールではなく、人間が自分たちの欲望をコントロールし、自然に対して謙虚になることだと思います。

日本は、全てを欧米の真似をするのではなく、欧米の優れた所は取り入れながらも、日本の素晴らしい所も大切に、日本に合った方法での自然保護をすすめていくべきだと思います。

（小山直美）



ドイツ「ワイルドパーク」のシカ

■ワイルドパーク：

クライルスハイムという街にある動物園。広い森の中をフェンスで区切り、ドイツの森に棲んでいる、またはかつて棲んでいた動物だけが飼育されています。気候風土が合わず、狭いオリの中で、動物たちがストレスのために行ったり来たりしている日本の動物園と違い、敷地が広く、自然の草や木も植わっており、動物たちは、より自然に近い状態で生活することができます。子どもたちにとっても、のびのびとした動物の姿を見ることができ、環境教育施設としても優れています。

【グラフ】動物の個体数の変動
（出典）啓林館 理科教科書

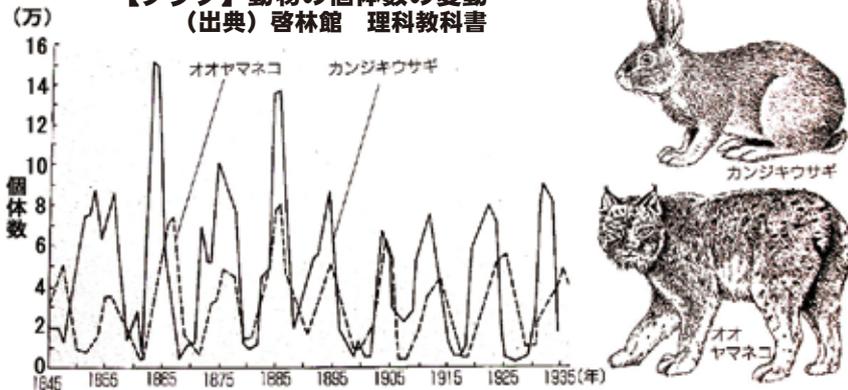
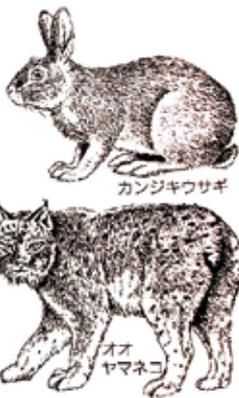


図26 動物の個体数の変動 このグラフは、カナダにすむカンジキウサギとそれを食べるオオヤマネコの個体数を、毎年とれる毛皮の数から推定したものである。



事務局短信

今年は残暑が長かったためか、紅葉の色づきがもう一つようです。先日、紅葉を期待して登った山でも、まだ三分ほどの色づきでした。（竹村光世）／京グリーン電力証書制度が、京都・花灯路で試行されることになりました。京グリーン電力のロゴマークが入ったチラシをぜひ見てみてくださいね。（小山直美）／10月の都心の社会実験に続いて11月には嵐山と東山の観光交通対策が行われます。京都市の交通政策にご注目ください。（長谷川吉典）

※漫画「藤ノ森通信」は都合により休載いたします。次号をお楽しみに。